

第2研究室



第1研究室



第3研究室



第4研究室



※ 図は、イメージです
仕様・色彩・形状は変更する場合があります

2024年秋 総合研究室が新しくなります



見通しのよい大空間
同じ分野での学び
分野を越えたつながり

改修計画概要

場所：真宗総合学術センター／響流館3階

工期：2024年8月～9月中旬

※この期間、総合研究室は利用できなくなります。詳細は開室カレンダーを参照下さい。

改修後の席数：348席

改修後の図書数：約15,500冊

※最大約30,000冊配架可能

貸出パソコン台数：105台

問い合わせ先：教育研究支援課（075-411-8161）



<https://www.otani.ac.jp/>
総合研究室概要



総合研究室の改修目的

人間教育の場であり、学生たちの研究交流の場である総合研究室は、2001年に竣工された真宗総合学術センター「響流館」の一施設として開室されました。その後20年以上が経過し、その間に大谷大学では、伝統的な教育理念を時代に応じて具体化するために将来構想のビジョンを定め、学内外のニーズに応じて複数学部への再編、研究科の名称変更、新教室棟「慶聞館」をはじめとする総合整備を行ってきました。

総合研究室の改修はこうした具体化のひとつであり、総合研究室がこれまで以上に、教員と学生（大学院生と学部生）が自身の研究分野を拠点としながらもそれを越えて交流する場（アカデミックコモンズ）となること、そして、学生の居場所となることを目的としたものです。

改修後の総合研究室概要

背の高い書架は周辺に配置し、利用者がフロアの奥まで見通せるようにしています。第1～第4研究室は研究室ごとにカーペットで色分けをしていますが、全域にわたってすべての学生が利用できます。プリンターとコピー機も、学部学科専攻を問わず誰でも使用可能です。

専門の助教がデスクを置く各研究室には、それぞれ専門分野の図書を配架し、教育学に関係する図書も配架しています。

総合研究室西側にあるブリッジを使って、多くの学習支援施設を備えた慶聞館とのあいだを自由に行き来することができます。また、中央にある階段を使って図書館と行き来することもできます。

中央エリア



交流しやすい四角テーブルとホワイトボード

総合研究室の特徴



各研究室で相談に応じる助教〔画像奥〕



大学院生（修士課程と博士後期課程）の院生デスク



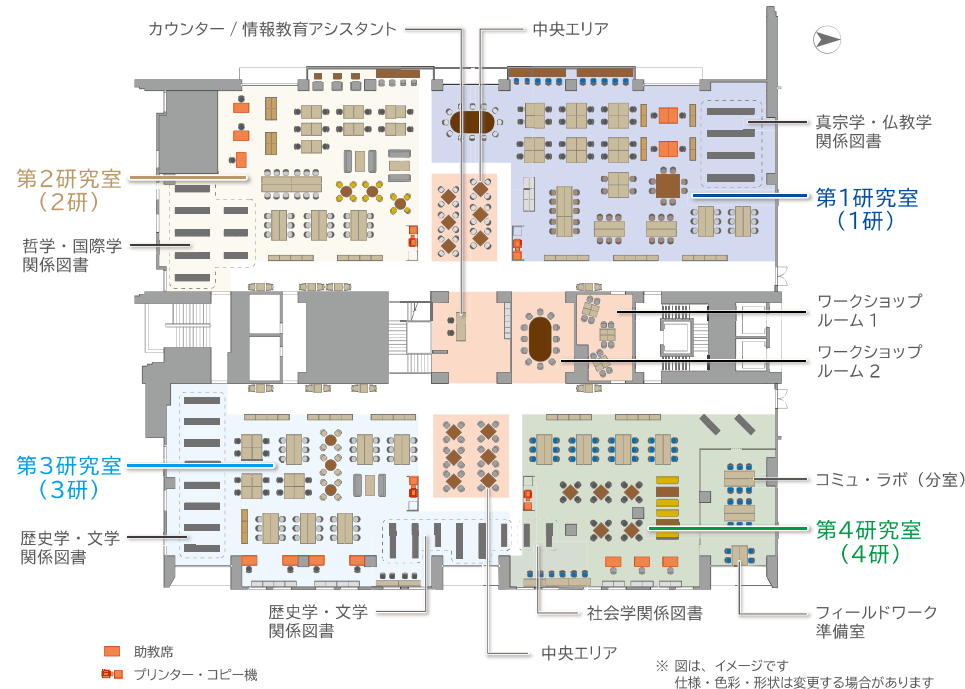
気軽に利用できるカウンター席



集中できる1人ソファ席



じっくり腰をすえて相談できるボックスソファ席



ワークショップルーム2



セミオープンなワークショップルーム

※その他に、ワークショップルーム1と総合研究室外の響流館3階にワークショップルーム3があります